

田中 耕太郎 (Kotaro TANAKA)

学位：学士（文学）

略歴：南山大学文学部英語学英文学科卒業

専門分野：英語学、英語教育

研究課題：1. 英語教授法研究

2. 英文法（統語論）

3. アメリカの教育

【著書】

- ・ *More English in Class* （共著 三省堂、2001 年 4 月）

【論文】

- ・「AI 時代の英語教育について—学習指導要領から見えてくるもの—」（愛知文教大学教職課程研究センター『教育研究』第 16 号、2025 年 3 月）
- ・「コミュニケーション活動に有効な英文法の指導—高等学校の英語指導において—」（愛知文教大学学び合う学び研究所『学び合う学び研究所紀要』第 2 号、2024 年 3 月 10 日）
- ・「コロナ禍下における簡易な動画教材の試み—You Tube と Power Point を使って—」（愛知県高等学校英語教育研究会『会誌』60 号、2021 年 3 月）

【研究発表】

- ・「アメリカにおけるチーム学校」（日本実践教育学会 第 5 回全国研究大会、2017 年 12 月）
- ・「アメリカにおけるチーム学校」（アメリカ教育学会 第 29 回大会、2017 年 10 月）
- ・「Character Education の研究—徳目教育の復権—」（アメリカ教育学会 第 16 回大会、2004 年 11 月）

【所属学会】

- ・ 中部教育学会
- ・ アメリカ教育学会
- ・ 日本実践教育学会

【その他】

- ・ 令和 7 年度第 32 回愛知県高等学校英語スピーチコンテスト審査員（名古屋国際センター2025 年 11 月）
- ・ 高等学校中堅教諭資質向上研修（後期） 講師（愛知県総合教育センター2019～2021年12月）
- ・ 教育実習指導・教育実践演習 講師（南山大学 2018年11月、12月、2019年11月、12月）
- ・ 日本実践教育学会 第5回、第6回全国研究大会 シンポジウムコーディネーター（2017年12月、2018 年11月）

- ・全国英語教育研究団体連合会 第 62 回全国英語教育研究大会 愛知県立豊田高等学校発表 指導・助言（2012 年 11 月）
- ・文部科学省 高等学校卒業程度認定試験問題作成委員（英語）（2007～2009 年度）
- ・愛知県立高等学校校長（2016～2021 年度）、愛知県教育委員会高等学校教育課（2007～2015 年度）

令和 8（2026）年度ティーチングポートフォリオ

氏 名	田中耕太郎	職位／役職	准教授
-----	-------	-------	-----

1. 教育の理念

言語は対外的なコミュニケーションの道具である。同時に自分が思考するための道具でもある。人間は言語を操ることで世界を構築してきた。自分たちが住むこの世界を維持し、よりよくするためにも、われわれは言葉を深く学び、そのスキルに磨きをかけることを怠ってはならない。

インターネットの発達で瞬時に世界とつながることができる現在、英語は世界語としてますますその重要性を増している。一方、AI の進化により、瞬時に精度の高い翻訳ができるようになった。こうした状況の中でわれわれが英語を学ぶ意義は何だろうか。キーワードは、生身の人間同士のコミュニケーション、圧倒的な情報量を誇る英語世界へのアクセスといったところだろうか。

日本人は英語が苦手だとよく言われる。国民性云々もあろうかとは思いますが、学校で英語をどのように教えてきたかに大きな問題があったことは論を待たない。

本学の学生諸君は、本学に来るまでの間にどのような英語学習歴をもっているだろうか。その学習歴に関わらず、すでに相当の英語力のある学生諸君や英語に少しばかり興味がある学生諸君には、より奥深い英語の世界を体験してほしい。また、これまでの英語学習において辛酸をなめたことのある学生諸君には、本学が標榜する「逆転力教育」のとおり、英語学習に対する認識を新たにしてもらい、少しでも楽しく有意義な英語学習を通して英語運用能力を向上させてほしい。

2. 教育活動の内容

Basic English

Reading Intermediate

Writing Intermediate

アカデミアゼミ A

アカデミアゼミ B

アカデミアゼミ C

アカデミアゼミ D・卒業研究

英語科教育法

3. 教育の方法

どの授業でも真剣に英語に触れる機会を増やし、ペアやグループでの **interaction** を取り入れている。

多くの学生のモチベーションを上げてきた、いわゆる学校文法の煩雑で難解な解説を離れ、より単純で実際の英語運用に即効性のある説明を心掛けている。

Reading では、英語の文章理解の流れを重視し、何度も繰り返し読むことを行っている。また、**scanning** や **skimming** といった活動も取り入れ、**ambiguity tolerance** を身に付けて、英文を読むことへの抵抗感の軽減を図っている。

Writing では、**sentence** と **phrase** の違いをはっきりさせ、1 文の書き方を身に付けることとあわせて、**paragraph writing** の基礎を順を追って学習し、何度も英文を書く経験を重視している。

4. 教育活動の成果・評価と改善方策

真剣に授業に取り組む者が増えてきた印象がある。学生からは、授業内容や英語学習の進め方についての質問が増えてきている。少しだけ英語学習の敷居の高さを低くすることができているようだ。

今後は、学生諸君が、英語ができるようになってきたと実感できるように、作業量を増やし、正のスパイラルとなるようにしていきたい。なんとか家庭での学習時間を増やすことができるよう工夫をしたい。

5. 今後の目標

より単純で実際の英語運用に即効性のある文法説明と、その表現を効果的に定着させるための方策を引き続き模索したい。それによって学生諸君が英語でやりとりする機会を増やしたい。

Reading では、速読と shadowing を導入したい。

Writing では、journal writing を導入し、学生諸君が英語を書く機会を増やしたい。

授業内でのこれらの活動を充実させることによって、学生諸君の英語学習に対するモチベーションを上げ、授業以外でも習慣的に英語に触れる機会をもってくれたらいいと思う。